



### 適正な植生環境のために

比奈知ダムでは、平成24年度から特定外来生物の「オオキンケイギク」の除根、要注意外来生物の「イタチハギ(クロバナエンジュ)」と「ニセアカシア(ハリエンジュ)」の伐採、そして、昨今「竹害」で問題視されている「タケ」の伐竹を行っています。上記の植物は、強い生命力と高い繁殖力で在来植物を圧迫し、生物多様性及び景観を損なう恐れがあるため、ダム貯水池の維持管理の一環として、適正な植生環境を維持する活動を実施しています。

### 比奈知ダム活動実績



### オオキンケイギク

オオキンケイギクは北米原産のキク科の植物。園芸用に輸入され、緑化にも用いられていました。再生力が非常に高いため、根絶は困難です。特定外来生物として外来生物法により規制されています。比奈知ダムでは、下流親水公園に侵入が見られたため、除根作業を実施しました。



### イタチハギ(クロバナエンジュ)



### ニセアカシア(ハリエンジュ)

ともに北米原産のマメ科の落葉木で、荒地でも育つため緑化資材として導入されましたが、全国で野生化。イタチハギは水没への耐性を持つため、水位変動域等での増殖が著しく、ニセアカシアも他の植物の生育を抑える物質を持つ等、影響が大きい。ともに「別途総合的な検討を進める緑化植物」として要注意外来生物に指定されています。

比奈知ダムでも、両植物による貯水池周辺への侵入が見られたため、伐採を実施しています。



### タケ

昔から馴染み深い竹ですが、最近は安い輸入品に国内産の竹の需要が奪われたために、管理されていた竹林が放置され、無秩序に増殖した竹が周囲の環境に侵入する「竹害」が問題になっています。タケも再生力が非常に高く、除去は困難です。比奈知ダム周辺でも竹の侵入が見られたため、伐竹と、タケノコの処理を継続して実施しています。



比奈知ダムが行うのは駆除・伐採だけではありません。下流親水公園ではヒガンバナの移植を行っています。

ヒガンバナは種子を作らず、球根の分球でのみ増えるため増殖は遅く、植栽範囲を管理しやすい植物です。

この新聞は、『少しでも環境に優しくできることはないか』と考え、『できることからやってみよう!!』と、私達が取り組んでいることを自己啓発も兼ねて皆さまに紹介しています



独立行政法人 水資源機構 比奈知ダム管理所  
 〒518-0412 三重県名張市上比奈知字熊走り1706  
 【TEL】0595-68-7111 【FAX】0595-68-7114



【PC】 <http://www.water.go.jp>  
 【携帯】 <http://kokoten.com/u1/hinachidam/>  
 ※ご利用には通信料が必要です